

新聞雜誌

明治壬申二月

第三號

定價二匁



特	別
18	
787	
31	



緒言

凡天下ノ物事ロニ新ナルニ我未ダ見聞セブルヲ知テ吾知識ヲ廣ムルヨリ
 樂シキハナシ見聞ノ狭キ田舎人ハ心頑ニ知暗シテ疑恠ムク多ク竟ニ我ヲ
 是トシ人ヲ非トスルノ過アリ今日カナル辱キ 御代ニ逢ヒテモ遠境ノ人ハ
 太政ノサマヲモ知ラデ却テ疑非ル者モアルベシ斯テハ逢カクキ世ニ生レシカニ
 ナシ今 官許ヲ受テ新聞紙局ヲ開キ 太政ヲ始メ諸有縣ノ變革又ハ
 里巷ノ瑣事外國ノ異聞ヲ見聞ニ随ヒ刊行スルハ我 日本國中ノ
 人々ノ新知ヲ開クノ樂ヲ同シ頑ナル心僻メル事ヲ棄ントテナリ願ハ此冊子
 ヲ讀玉フ人々ヲ聞テニヲ推シ近ヲ知テ遠ヲ察シ天地間ニ我意外ニ驚
 ベク喜ハト事多ク唯一隅耳ヲ見ルハ田舎人タルヲ免レモ夏虫氷ニ幾 其
 リト知トハサテコソ復古ノ 大御代ニ生レシ人タルニ負カシト云ハケレ



新聞雜誌第卅一號 明治五年壬申

○來ル三月十日ヨリ二十日ノ間文部省博物館ニ於テ
 博覽會ヲ催サル毎朝九字ヨリ午後四字ニ至ル迄男女
 ヲ論ヤズ一日大略千人ヲ限リトシ同館及ビ諸方書林
 ヲヨリ出セル切手ヲ以テ拜觀スルヲ許サル又同省ヨ
 リノ布告書アリ云
 博覽會ノ旨趣ハ天造人工ノ別ナク宇内ノ産物ヲ蒐集
 シテ其名称ヲ正シ其用方ヲ辨シ人ノ知見ヲ廣ムルニ
 在リ就中古器舊物ニ至テハ時勢ノ推遷制度ノ沿革ヲ

新聞雜誌 第卅一號

追徴スベキ要物ナルニ因リ嚮者御布告ノ意ニ原キ周
ク之ヲ羅列シテ世人ノ放觀ニ供セント欲ス然レ其各
地ヨリ徴集スルノ期ニ至テハ之ヲ異日ニ待ガルヲ得
ズシテ現今存在ノ舊器ハ社寺ニ遺傳スル什物ノ外其
用ニ充ツヘキ物少ナク加フルニ皇國從來博覽會ノ
舉アラザルニヨリ珍品奇物ノ官庫ニ貯フル所亦若干
許ニ過キズ因テ古代ノ器物天造ノ奇品漢洋船載新造
創製等ヲ論ゼス之ヲ藏スル者ハ博物館ニ出シテ此會
ノ缺ヲ補ヒ以テ世俗ノ陋見ヲ啓キ且古今ノ同異ヲ知
ラシムルノ資物ト為スヲ請フト云

○今般舊高松縣知事松平頼聰先祖以來傳來ノ名器千
鳥ノ香爐ヲ献上セリ又舊徳嶋縣知事蜂須賀茂詔旧采
所藏ノ古金銅錢共料紙硯箱等ヲ献上セル由就テハ諸
舊縣知事其他名器珍品ヲ所持スル者ハ早ク献上シテ
博物館ノ物トナル時ハ名器モ永ク世ニ顕ハレ隨テ世
人ノ智見ヲ開ク裨補トナルベシ然ルニ傳來ノ器品類
ヲ奸猾ノ賈兒ニ買ヒ取ラレ多分ノ金錢モ得ル能ハズ
終ニ名器モ淪滅スルニ至ル實ニ惜ムベキナラヌヤ
ト或人ノ説ヲ此ニ記ス

○福澤諭吉ノ取建シ慶應義塾ハ府下第一ノ學校ニシ

テ規則正シク教諭親切ナリ故ニ方今入學ノ者殆^{ホト}ント
 千人ニ至ルト云此頃又横濱高嶋嘉右衛門ノ取建シ學
 校ニテモ同氏ヲ頼ミ教師トナシタル由サレハ此學校
 モ追日盛大ニシテ彼義塾ニ劣^{オト}ラザルヤウ成ルベシト云
 ○或外國人ノ說ニ方今日本人ノ西洋書ヲ讀ム者多ク
 ハ會話、文典、宛理書、地理書、歴史、政事書ノ類ニ止リテ人
 生切^{セツ}要ナル終身學ヲ講究スルモノナシ恐^{オソ}ラクハ本ヲ
 捨^ステ末ニ趨^ツルノ弊習ヲ生シ遂^{ツイ}學風偏頗ニ流ルベシ各
 注意スベキナリト云々

○昨秋ヨリ當府下官校私塾ノ盛シナル幾ヶ所ナルヲ

知ラズ又女學教授ノ者相繼^ツテ出テ所々ニ塾ヲ開キシ
 ヨリ徃々婦女子ノ袴^{ハカマ}ヲ着シ洋書ヲ懷^フロニシ街上ヲ徃
 来スルヲ見タリ此頃又吉原中ノ町沼口美佐雄トイヘ
 ル者遊里ニ活計ヲ營^イミナガラ里人ノ懶惰ナルヲ歎^ナキ
 京町一町目ニ於テ新タニ共^{キヤウ}慣義塾出張所ヲ設ケ廓内
 外迫巷ノ長幼ヲ入^レレ英學ヲ正課トシ傍^{カタク}ラ漢籍ヲモ讀
 シメ東脩月謝及ビ入學ノ規則等モ簡便ニ定メタリシ
 由其開校ノ記ニ云
 東京府内ハ四方輻^{フツ}湊^{ソウ}ノ地ニシテ開化モ諸國ニ先チテ
 進^スム^ク速カナリ獨^{ドク}リ吉原ノ一廓ノミ遊里ノ陋習傳^{デン}染

シ文明ノ今日ニ至ル迄懶惰僥倖ヲ以テ活計ヲ求ルカ
故ニ晝夜小利ニ奔走シ從學ヲ得ル者稀ナリ余宿縁ア
リテ此浮境ニ寄留スルヲ十有餘年常ニ廓習ノ固陋ニ
シテ里人ノ蠢愚ナルヲ嘆ズレ氏家毎ニ之ヲ説ベカラ
ス説ント欲スルモ才學ニツナガラ乏シク徒然トシテ
黙止スル歳アリ方今文物ノ隆時ニ當リ西洋ノ理學盛
大ニ行ハルヨリ市街ニ官校私塾ノ開興數多ナルヲ
以テ其驥尾ニ附キ羣ニ倣ヒ吉原ノ廓中ニ小學私塾ヲ
營ナニ他ヨリ教官ヲ請シテ多年ノ膠味ヲ覺ガシメ僅
ニ報國ノ微志ヲ表セント欲シ義ヲ知己ニ告グ知己元

來共憤義塾同社タレバ余カ素志ヲ憐ニ其社長ニ告テ
教官一名ヲ分チ本塾ノ出張所タラシメンヲ約ム共
是宿志一時ニ達シ速ニ京町一丁目ニ小塾ヲ開キ束脩
月謝從學ノ規則ヲ定メテ有志ノ入門ヲ待ツ廓内外近
巷ノ長幼年齡ノ遲速ヲ論セス來リテ從事センヲ冀
望ス但シ夜ヲ以テ日ニ繼ノ廓習ナレバ每會夜學ノ設
ケアリ童蒙別ニ漢籍ヲ學バント欲セハ望ニ應シテ讀
シムベシ初學階梯ノ周旋ハ余カ共憤ノ一端也云々夫
レ吉原ハ淫蕩無賴ノ淵藪ニシテ風俗ノ汚穢ナル言ヲ
待タス今學校ヲ設ケ其舊風ヲ一洗セント欲ス固ヨリ

美^{コト}舉^ト謂^ハガルベカラス然^レ氏^ハ僅^ニ洋漢ノ文字語音ヲ
學^ビ有名無實ニ陥^リ徒^ラニ幫^ト間^ニ藝^ト妓^ト等客ニ媚^ルノ具
トナシ益^ハ生^キ口^ハ伶^イ俐^ニ浮^レ習^ヲ助^ルヤウ成^行テハ却^テ文
明教化ノ妨^タ氏ナルベシト或^シ老^シ婆^ニ心^ハノ人語レリ

○今般東海道驛々傳馬所被廢諸官員通行ノ節休泊等
總^テ相對^ヲ以^テ相當ノ旅^ハ籠^ト料^ハ相拂驛方ノ厄^ハ介^ニ不相
成^ヤウ心付^ベキ旨御布令アリ

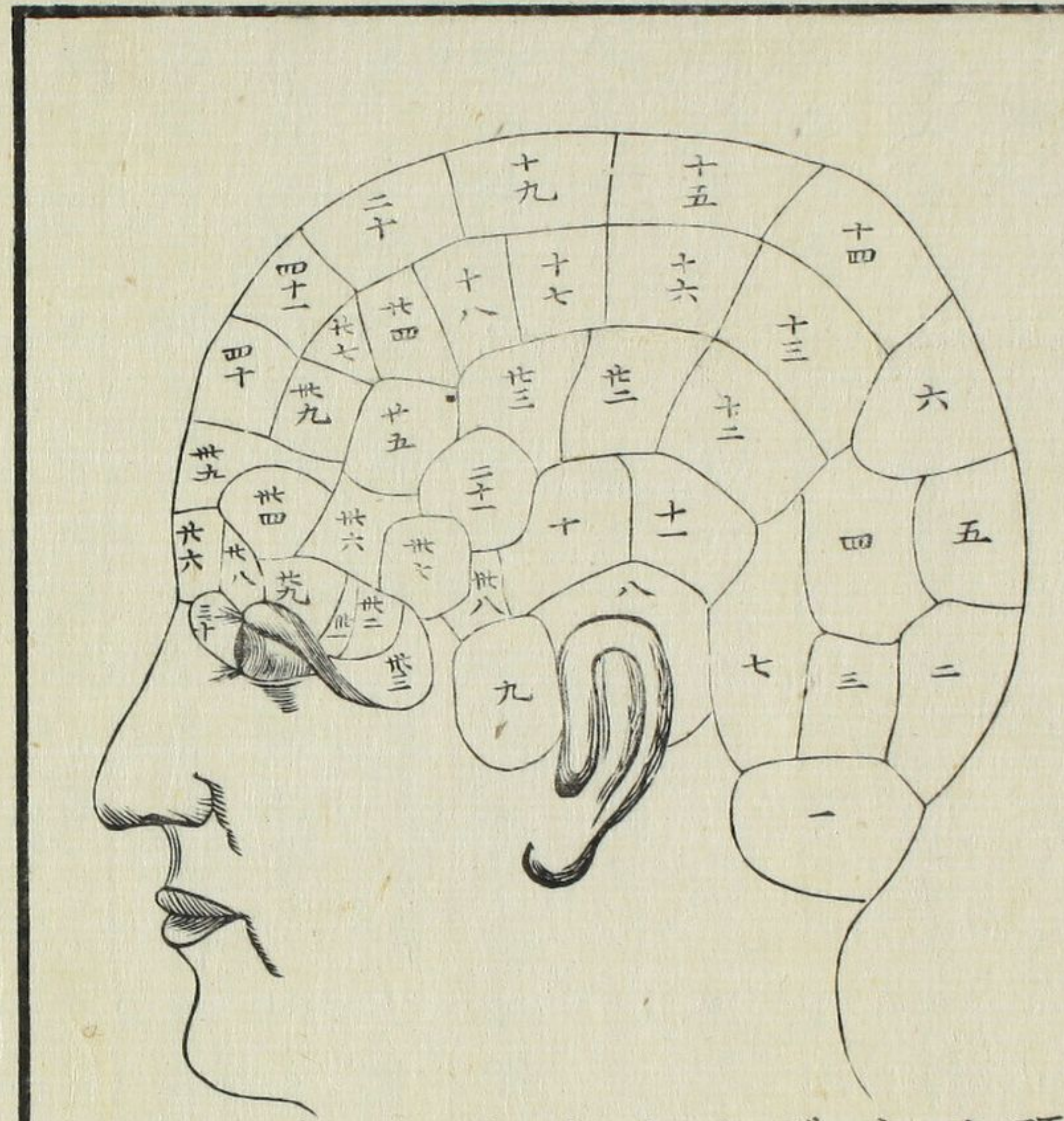
○廿九號ニ記載セシ播州姫路ノ頑^シ民^ハ但馬國ヲ煽^ル動^シ
元生野縣官負^テ兩人ヲ殺害シ刺^ヘ鑛山寮出張所ヲ放火
ヒシ者共追々捕^ハ縛^レ紮^シ彈^マラレシニ罪ニ伏^ン斬首七人

絞首三人正月廿日刑典ニ處^セラレタリト云

○正月十八日頃元柳河藩城中ヨリ出火シ城郭共天守
等不殘燒失シタル由傳聞セリ

○或^シ人^ハ戲^レニ當府下人民ノ等級^ヲ分^テ真^ニ開化ノ者一
分半開化ノ者二分開化ヲ真^ニ似^ル者五分開化ヲ不知者二
分ナリト云左モ有リヌベシ

○我邦人未^ダ察^ス腦^ノ學^ヲヲナスモノアルヲ聞カス友人某
多年其學ヲ講^ク究^シ試^ミニ世人ヲ相^ソスルニ賢^ニ愚^ニ善^ニ惡^ニ適^ス
中^ニセザルナシト云其書中ヨリ左ノ略圖ヲ掲^出シ世人
ノ考^ク驗^スニ供^ス



頭腦ニ神氣ノ集マル
處四十餘部アリテ各
其働キヲ著ハセリ其
腦殼各部ノ高キモ
ノハ自カラ表ノ相
ヲ具フ低キ者ハ之ニ
及セリ西洋ニテハ小
児ヲシテ其生業ヲ得
セシムルニ預之ヲ
相シテ各其道ニ入ル
ニ誤マル事ナシト云

①色ヲ好ム ②子供ヲ愛ス ③長生ヲ好ミ死ヲ恐ル
 ④兄弟ノ情厚ク朋友ノ交リ信アリ ⑤家居築造ヲ
 好ム ⑥氣長ク事ニ堪ユ ⑦喧嘩ヲ好ム ⑧殺生ヲ
 好ム ⑨飲食ヲ嗜ナム ⑩私欲深シ ⑪隱事ヲ好ム
 ⑫臆病ノ者 ⑬名譽ヲ欲ス ⑭自慢 ⑮剛情
心欲ノ部鳥獸ニモ之ヲ具フ ⑯是非ヲ裁判ス ⑰大事ヲ企ツ ⑱
 未然ヲ察ス ⑲神ヲ信シ貴人ヲ尊フ ⑳仁心深シ
 以上道 ㉑器械ヲ好ム ㉒山水ヲ好ム ㉓詩ヲ作り
 風雅ヲ愛ス ㉔質物ヲ作ル ㉕滑稽
 發明ヲナス ㉖悦ビ多シ ㉗穀物ノ形ヲ諧記ス ㉘新
 ㉙

物ノ大小長短ヲ覺ユ ①物ノ量目ヲ覺ル ②彩色ヲ好ム ③清潔ヲ好ム ④算術ヲ好ム ⑤地理ニ明ナリ ⑥新聞ヲ好ミ多辯ナリ ⑦年月ヲ諳ナリ ⑧以上エ ⑨音樂ニ長ス ⑩談話ニ巧ミナリ ⑪以上文部 ⑫究理ヲ好ム ⑬物ノ比較ヲナス ⑭礼節正シ ⑮以上

○石見國安濃郡志學村農民常太郎生質正直ニシテ餘母ニ事エ家業丁寧ニ勤居シカ先年ノ凶歉ニ續テ不慮ノ類焼ニ遇ヒ生計モ立兼ルヨリ終ニ母ヲ携テ居村ヲ轉シ同郡刺賀村藤十郎ナル者ノ借家ニ暮シ母ハ八十

餘歳ニ成リ両眼共見ヘ兼ルヨシ然ルニ終カ高二外計リニテ農業ヲ稼キ内ハ妻孥ノ與ニスベキナク外ハ親戚ノ憑ルベキナシ唯一人ノカヲ以テ百方ノ艱苦ヲ凌キ常ニ母ノ側ニ侍テ日々ノ食事モ手ツカラ煮焚イタシ成ル丈甘脆ヲ母ニ供ヘ冬ノ日ハ衣衾トテモ乏シケレバ母ノ手足ヲ已カ肌ニテ温メ夏ノ夜ハ蚊帳トテモナケレハ母ノ左右ヲ離レズ終夜蚊ヲ拂ヒ扨事々右ニ準シ懇ニ相事ヘ連年ノ膏災ニ家ハ益貧窮ナレド孝養ハ愈篤ク見ル者聞ク人感泣セザルハナシ此件縣廳ニ具ニ 朝廷ヘ言上ニ及ビシニ深ク 御感賞在セ

ラレ金一萬匹下シ賜リタル由嗚呼彼田舎ニ生長シ良
師善友ノ尊ク巧ニアラズシテ其至孝古人ニ愧サルハ
實ニ奇特ノ者ナリトテ公縣管下ニ於テモ大ニ旌表セ
ラレタリト云

○正月十一日夜一字頃東京湯嶋同朋町井昌亭ト云ル
料理茶屋ニ於テ下谷伎士町盜賊冬木鈴之助其他同類
二人元龜山縣邏卒ノ手ニテ捕縛セリ翌十二日鈴之助
右屯所ヲ繩スケイタシ行衛知レガリシニヨリ屯所ヨ
リ諸方ニ手配リヲナシ種々詮議セシニ十三日一至リ
兄松平某ヨリ今朝未明自己明小屋ニテ弟鈴之助喉ヲ

貫キ自殺ナシタル由屯所へ訴エ出シト云

○三月朔日ヨリ東京ニ於テ英人ヲアレツキ我國語ヲ
以テ毎日新聞ヲ刊行シ西洋風ニ毎朝八字ヲ限リ府中
ニ分配セル由此舉ハ邦人合議シテ起セルナナルベシ
○ウエールスノ宛理書中ニ人身滋養ノ食物ハ肉類ヲ
第一トス 一牛 二鶏 三豚 四綿羊 五小牛肉
魚類ヲ第二トス 一鱈 二鱒 三鮭 四鰻

○二月廿六日兩國中村樓ニ於テ久保田萬峰會主ニテ
琴棋書画音曲歌舞其他雜俳ノ大會アリ

新聞雜誌第卅一號終

今般大藏省ニ於テ改置府縣概表ト云ル書刊行ニ成リ
府縣ノ石高郡名職名官負等明細ニ擧出シ近日書肆須
原屋茂兵衛店ニテ賣弘メ致セル由世人各一部ヲ側ラ
ニスベキ書ナリ

○漢語用文 糸野孝義著

世ニ刊行セル用文章ノ類牛ニ汗シ棟ニ充テリ皆俗
間日用ノ書札ヲ集メテ贈答ノ模範トナス耳此書ハ
漢文ニ俗語ヲ折衷シ尺牘ヲ綴リ習フニ入り易カラ
シメ童蒙進學ノ階梯ナレバ四方ノ看客閱覽アラ
ンヲ冀フト云 發行書肆 東京通油丁 藤岡屋慶次郎

撰者伏テ四方ノ君子ニ告ゲ奉ル本局既ニ官許ヲ得テ新聞紙ヲ刊行ス
其旨意ハ前ニ述ル所ノ如シ但奇事異聞耳目ノ及ハサル處多シ頗久同好ノ人
何事ニヨラス其處々ノ新聞ヲ書集メ本局及ビ下ニ列スル賣弘處ニ寄セ玉
ハ次第ニ刊行發兌スシ但寄玉ヲ書付ニ其住處姓名ヲ必ズ載セ玉フ
可シ無名ノ書ハ敢テ采入セス無根ノ浮言造説アルヲ恐ルナリ

- 一切賣買ノ弘メ等望ニヨツテ出版スル事件
- 一田地山林家屋舟車等賣買貸借
- 一產物器具食品藥劑等一切ノ賣買
- 一諸船ノ入湊出帆積荷ノ物件等
- 一店ヒラキ新規賣出等ノ引札
- 一失物尋物等
- 一觀セモノ集會等ノ引札
- 一右等何レモ一行セ三字一度出板價ニ宛宛同事件ニ度分ハ五々五分
- 三度分ハ八々ニテ御引受イタシ候

新聞雜誌定價一號銀二匁 每週出版

當時發兌號ヨリ先キ十冊分引受候向ハ定價ヨリ一割半引

同二十冊分ハ二割引 同四十冊分ハ三割引

右定ノ通約定前金受取候上ハ每號發兌順序ヲ逐ニ本局ヨリ御届致候又遠方取次賣弘方望メノハ本局へ御引合ニ御相談可申候

本局

東京西國橋若松町

新 堂

東京西國橋山町三丁目

和泉屋金右門

東京芝三馬町

和泉屋市兵衛

大塚齋橋通

河内屋吉兵衛

西京東洞院前上小町

村上勘兵衛

東京日本橋通高日

須原屋茂兵衛

大塚齋橋通

河内屋喜兵衛

大塚齋橋通安土町

河内屋清七

東京日本橋町

和泉屋杜造

賣弘所